

ロードレース（自転車）の全国大会で優勝

波片 鉄平さん（実業団チーム「CR3W」所属選手）

6月、静岡県で開催された「全日本選手権ロードレース 2025 マスターズ」に出場し、50代クラスの頂点に輝きました。

急な坂が続くのが特徴のコース。波片さんが「最も苦手」とするコースでしたが、レース序盤から先頭集団に食らいつきます。2年前の覇者が上りのたびにペースを上げる中、誘いには乗らず「我慢」。ラスト150m、持ち味のスプリント（短距離の全力疾走）で勝負を仕掛けて集団を飛び出し、2位選手との一騎打ちを制しました。

全日本選手権を目標に据えたのは2022年。所属する実業団のマスターズで年間チャンピオンになったことから「全日本を狙える位置にいる。50歳になったら出場しよう」と決意し、3年計画で準備に臨みました。

市の消防職員として働く傍ら、冬場のトレーニングでは月1,500～1,800kmほどを実走。苦手なレースへの出場や減量に取り組んだ他、大会前にはさらに距離を伸ばして追い込みをかけました。

次なる目標は、来年の全日本選手権での連覇。今月開催される「日本スポーツマスターズ 2025 in えひめ」をはじめ、県内外のさまざまなレースに出場し、腕を磨くつもりです。

全日本のチャンピオンジャージーと誇りを身にまとい、波片さんの挑戦は続きます。



優勝台での波片さん（中央）



勝負を仕掛ける波片さん（左）

チャンピオンジャージー

異なる舞台で輝く挑戦者たち

全国の頂点に立ったアスリートと世界の大舞台で才能を認められたデザイナー。全く違うフィールドで活躍する2人に、成功への道のりを聞きました。

世界最大級のデザインコンペで入賞

吉田 菊美さん（デザイナー・ブランドプランナー）

イタリアで開催された世界最大級の国際デザイン賞「A' Design Award & Competition」パッケージ部門に3点を出品し、2点がブロンズ賞（最高賞から4番目）、1点がアイアン賞（5番目）に選ばれました。

出品したのは、はがた農園の野菜のギフトボックスと漬物、株式会社大愛の「KINOKO MESHI」。地元企業とコラボし、県の広告賞で入賞した作品です。「愛媛でお客さまとともに形にしたデザインが、海外のコンペでどこまで届くか見てみたいという思いがありました。私自身が大切にしてきた“届ける”という姿勢の原点にも通じていました」と吉田さん。

吉田さんは地元の高校を卒業後、大阪の専門学校でデザインを勉強。卒業後は帰郷し、広告会社などでキャリアを重ねました。2020年に独立し、「クーチェデザイン」を設立。新居浜を拠点に活動する傍ら、松山大学で教壇に立ち、後進の育成にもあたっています。

大切にしているのは現場に足を運ぶこと。「そこに流れている空気感をデザインで見える化して、分かりやすい形にしたいんです」。出品した3作品も、何度も現場を訪れデザインを練り上げていきました。

最近やっと受賞の実感がわいてきたそう。「地元企業と力を合わせることで、みんながウィンウィンウィンになる、みたいな。作って終わりではなく、新居浜だからできることをしたい」と意欲をのぞかせました。



市長に受賞報告した吉田さん（右）



野菜のギフトボックス（上段左）、漬物（同右）、「KINOKO MESHI」（下段）

中学生アスリート 世界へ

野球とセーリングに打ち込んできた中学3年生2人は、それぞれ世界大会への出場を決め、大会に向けて闘志を燃やしました。



硬式野球 藤岡 慎太郎 君（角野中3年）

8月に米国で開催された「2025 世界少年野球大会」。藤岡君は日本チームの代表選手に抜擢され、世界の強豪がそろった大舞台に挑みました。

日本チームは、国内ボーイズリーグ各支部から選ばれた中学生18人で構成。藤岡君は「今治中央ボーイズ」に所属し、上島町での中四国ブロックトライアウトで代表の座を勝ち取りました。

持ち味は、技術力の高さとチームを引っ張る力。藤岡君は「周りの人の支えがあって出場できた。日本代表として全力でプレーして、応援してくれる人に感動を与えたい」と力強く語りました。



セーリング 峰平 陽向 君（船木中3年）

7月、兵庫県で行われたセーリングの世界大会「オープンスキフワールドチャンピオンシップ2025」に初出場を果たしました。

「スキフ」とは、平底で幅が狭いスピードを重視した小型の帆船です。峰平君は小学1年生の時、ヨットの体験会に参加したことをきっかけに本格的に競技を開始。これまで子ども向けの「オプティミスト」で全国大会に出場するなど活躍してきましたが、大会出場が15歳までだったため、昨年夏にスキフに転向しました。

世界大会への挑戦は初めて。出場を前に市役所を訪れ、市長に大会での健闘を誓いました。

夏の夜空染める大輪

7月25日夜、にいはま納涼花火大会があり、約8,000発の花火が夜空を鮮やかに彩りました。

